

串木野市埋蔵文化財発掘調査報告書 (1)

県営農免農道整備事業 (伊倉ヶ迫地区)

に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

寺 堀 遺 跡

所在地 串木野市下名字寺山

1991年 3 月

串木野市教育委員会

冠岳より望む遺跡





遺跡の土層



周辺の古石塔

序 文

この報告書は、平成2年度串木野市教育委員会が県営農免農道整備事業の実施にあたり、寺堀遺跡の埋蔵文化財の確認をするために、行った事業であります。

この確認調査は、平成2年8月20日から9月5日までの二週間を費し、縄文時代早期の土器片・黒曜石の剥片などの遺物が採集されました。

この調査及び報告書の発刊に至るまで鹿児島県教育委員会文化課のご指導、ご援助により無事終了することができました。

ご尽力くださった文化課の先生をはじめ、ご協力くださいました関係者の方々に深甚の敬意を表しますとともに、市民の皆様に埋蔵文化を理解していただくとともに、広く文化財の保護に一層のご協力をお願いする次第であります。

平成3年3月

串木野市教育委員会

教育長 恒松 幸男

例 言

- 1 本報告書は県営農免農道整備事業（伊倉ヶ迫地区）に伴う埋蔵文化財確認調査報告書である。
- 2 確認調査は国・県の補助を得て、串木野市教育委員会が調査主体者となり、調査及び報告書作成作業を県教育庁文化課に依頼した。
- 3 報告書の執筆は下記により分担して行った。

第1, 3, 4章	吉永
第2, 4章	堂込
- 4 本書のレベル数値は海抜絶対高である。
- 5 本書で用いた遺物番号は通し番号とし、挿図・図版の番号は一致する。

目 次

序 文	6
例 言	6
第1章 調査の経過	6
第1節 調査に至るまで	6
第2節 調査の組織	6
第3節 調査の経過	6
第2章 遺跡の位置及び環境	8
第3章 遺跡の調査	16
第1節 調査の概要	16
第2節 土層	18
第3節 各トレンチの調査	18
第4章 まとめにかえて	24

表 目 次

表1 串木野市管内の遺跡一覧	9	表2 寺堀遺跡トレンチ別一覧	16
----------------	---	----------------	----

挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡	10	第2図 寺堀遺跡採集遺物	11
第3図 串木野市中央公民館収蔵遺物(1)	12	第4図 串木野市中央公民館収蔵遺物(2)	13
第5図 串木野市中央公民館収蔵遺物(3)	14	第6図 串木野市中央公民館収蔵遺物(4)	15
第7図 寺堀遺跡地形図及びトレンチ配置図	17	第8図 土層模試図	18
第9図 第1トレンチ土層図	18	第10図 第2～5トレンチ土層図	19
第11図 第6～8トレンチ土層図	21	第12図 第9～14トレンチ土層図	22

図 版 目 次

巻頭1 冠岳より望む遺跡	25	巻頭2 遺跡の土層・周辺の古石塔	26
図版1 寺堀遺跡遠景及び近景	25	図版2 発掘調査風景各トレンチの土層(1～4)	26
図版3 各トレンチの土層(5～12)	27	図版4 各トレンチの土層(13, 14)・採集遺物	28
図版5 中央公民館収蔵遺物各トレンチの土層	29		

第1章 調査の経過

第1節 調査に至るまで

鹿児島県農政部（農地建設課・伊集院耕地事務所）は、串木野市大字下名伊倉ヶ迫地区において県営農免農道整備事業を計画し、事業計画地域内の文化財の有無について県教育庁文化課に照会した。

県文化課はこの依頼を受けて平成元年4月に分布調査を実施したところ、計画地域内に寺堀遺跡と西前床遺跡の所在していることが確認された。

そこで県農政部、県教育庁文化課、串木野市教育委員会の三者は埋蔵文化財の保護と事業の推進との調整を図るための協議を行った結果、寺堀遺跡については平成2年度に串木野市教育委員会が国・県の補助を得て確認調査を実施することとなった。

確認調査は串木野市教育委員会が調査主体者となり、発掘調査及び報告書作成を県教育庁文化課に依頼した。

確認調査は平成2年8月20日から9月4日まで実施し、その後、県文化課収蔵庫において整理及び報告書作製作業を行った。

第2節 調査の組織

調査主体者	串木野市教育委員会	教育長	恒松幸男
調査責任者	串木野市教育委員会	社会教育課長	鮫島薫明
調査事務担当	串木野市教育委員会	課長補佐	川邊勝洋
		主事	久木野親志
		社会教育指導員	田上隆弘
		〃	松寄正美
発掘調査担当	鹿児島県教育庁文化課	文化財研究員	吉永正史
		〃	堂込秀人

なお、調査の企画・実施にあたっては、県教育庁文化課長吉井浩一、同課長補佐濱松巖、同主幹立園多賀生、同主任文化財研究員兼埋蔵文化財係長吉元正幸氏らのほか同企画助成係長濱崎琢也氏等の指導・助言を得た。

第3節 調査の経過

確認調査は平成2年8月20日から9月4日まで実施した。

その後、教育庁文化課埋蔵文化財収蔵庫において報告書作成作業を行った。以下、日誌抄により略述する。

- 8月20日(月) 調査の開始。諸道具等の搬入及び調査に際しての諸注意、伝達。
第1～3トレンチの設定及び掘り下げ及び第3,4トレンチの設定。
- 8月21日(火) 第1,2トレンチ土層実測。第4,5トレンチの掘り下げ。
第6トレンチの設定。
- 8月22日(水) 台風接近のため一部調査のみで作業を中止する。
- 8月23日(木) 台風接近の為第7,8トレンチを設定し、一部第6トレンチの掘り下げを行ったのみで作業を中断する。トレンチ設定カ所の承諾依頼事務。
- 8月24日(金) 第6～8トレンチの掘り下げ。今後の調査日程等の打ち合わせ。
- 8月27日(月) 第9～11トレンチの掘り下げ。第6～8トレンチの土層実測。
- 8月28日(火) 第9,11トレンチの掘り下げ。第10,11トレンチの土層実測。第7,8トレンチの埋め戻し。第13トレンチの設定。
- 8月29日(水) 第12～13トレンチの掘り下げ。第14トレンチの設定及び掘り下げ。
第10トレンチの埋め戻し。
- 8月30日(木) 土層実測。
- 8月31日(金) 各トレンチの埋め戻し作業。
- 9月3日(月) 各トレンチの埋め戻し作業。
- 9月4日(火) 発掘諸道具等の搬出及びプレハブ等の撤去。



確認調査風景

第2章 遺跡の位置及び環境

串木野市は薩摩半島の西岸に位置し、北は川内川、東は薩摩郡樋脇町、南は八房川によって市来町に接している。市域の北部は旧期火成岩からなる八重山山塊に属する冠岳、平原山、弁財天山などからなる海拔500m前後の山々が連なり川内市との分水界をなし、この山地は金鉾を蔵する。南はシラスが広く堆積して台地を作り、山地部は熔結凝灰岩や安山岩の露出するところもある。樋脇町野下に源をもつ五反田川は、シラス台地を削って沖積地をなしながら野元で海に入る。こうした沖積作用と北西の季節風で、南から続く吹上浜砂丘の末端を形成していた。こうした沖積地に現在の市街地が立地する。

市の最高峰冠岳は、除福伝説で知られる。用明天皇の勅願所として蘇我馬子建立の興隆寺があり、西岳・中岳・東岳に熊野三所権現を招請し、現在はその礎石をとどめるのみであるが霊峰として信仰をあつめている。開山阿子丸仙人より63代快屋に至る住持の墓は、頂峯院西側の段丘や清流花川のほとりに、坊主墓として現存している。また、万治3年(1660)のころ、島津家が芹ヶ野において掘り始めた金山は、全国でも有数の金山として知られている。

寺堀遺跡は、北を五反田川、南を八房川と挟まれた標高100mの丘陵上に位置する。南側は急傾斜して八房川に落ち込み、対岸に縄文時代後期の貝塚として有名な市来川上貝塚が見える。直線距離にして約6kmである。北に下ると中・近世の串木野の中心部となる上名麓へ至る。付近には室町期の石塔群や文明9年(1477)の銘のある板碑がある。さて時期は下るが、『指宿市史』によると指宿市今和泉にある日潤寺は、延享2年(1745)に串木野の冠岳頂峯院の末寺たる松蓮寺を改宗・再造したと寺院内の石碑の碑文に述べられている。松蓮寺の場所は、串木野市側では現在特定できていないものと思われるが「寺堀」という字名と丘陵下の「斉蓮ヶ池」の名と、前述した石塔・板碑などの存在と考え合わせると、付近に位置していたと推定できるのではなかろうか。このほか、寺堀遺跡の位置する丘陵の先端部には、慶長3年(1598)島津義弘の連れ帰った朝鮮の陶工70余名のうち43名が島平浦に上陸し、薩摩焼の発祥地となった場所が、町指定文化財として残されている。さらに下ると、酔之尾川沿いに井手下遺跡がある。

井手下遺跡は昭和36年に、河口貞徳・富宿三善らによって発掘調査がなされた遺跡であるが、発掘と併せて多様な遺物が富宿によって採集されている。原山式として、串木野市の郷土史に報告されている突帯文の土器は、当時は鹿児島県では出土例が少なく、一時期は井手下式として縄文時代晩期の編年に使用されていた。井手下式は実態が不明確であるうえに、その後突帯文の土器の資料が増加し、現在は型式名としては使われることが少ないとはいえ、学史的には大きな意味があった。調査の結果は、氾濫原として報告してある。しかし縄文時代晩期と弥生時代の土器が出土しており、沖積地として初期の稲作に適していたであろう地形から、付近の微高地には、その時代の遺跡が存在していたと考えられる。

山地が多く、表土が一般に薄いところから、現在まで埋蔵文化財が注目されることが少な

かったが、五反田川と酔之尾川に挟まれた丘陵や台地は立地条件に恵まれており、今後の開発で注意を要する。

《参考文献》

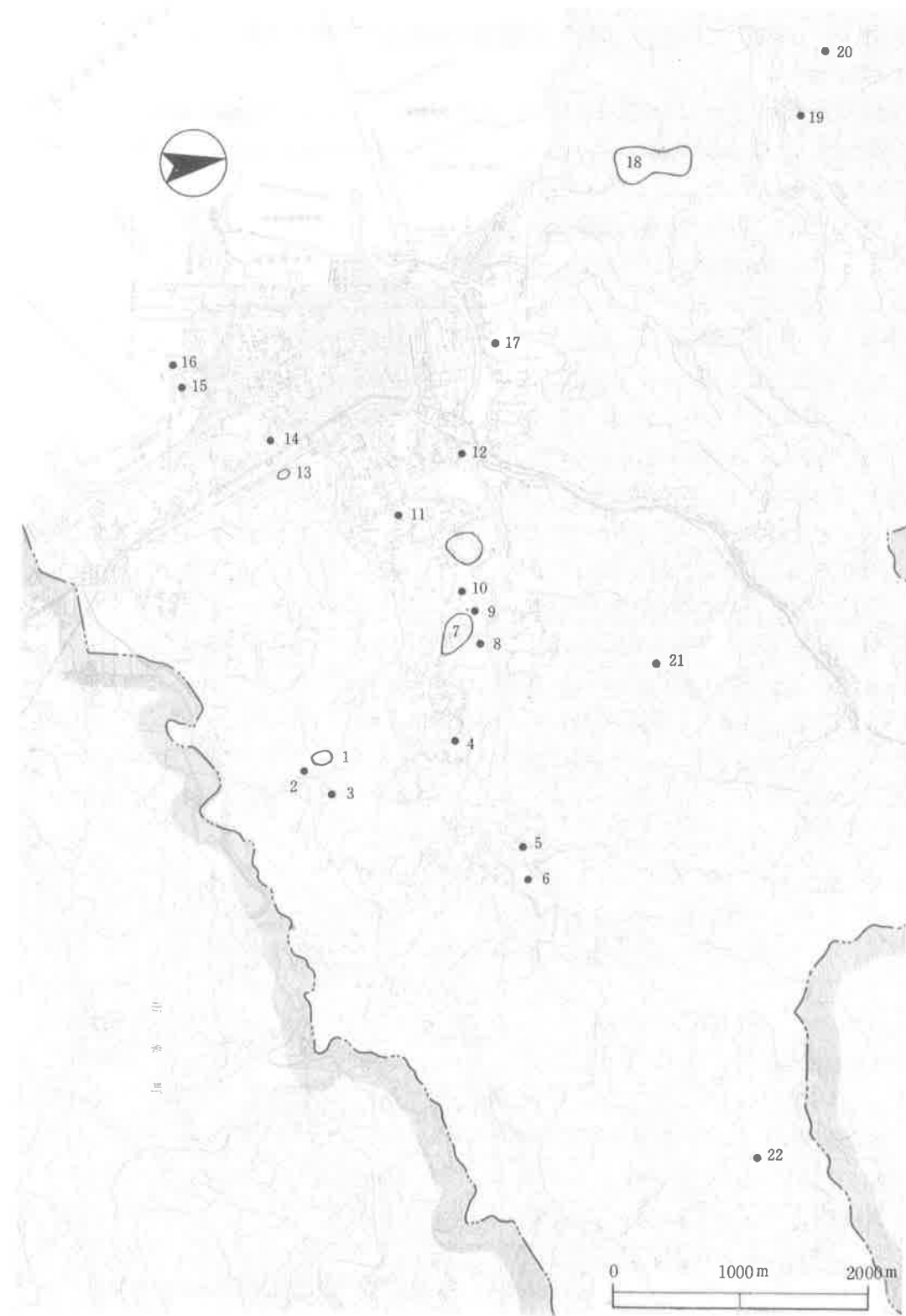
『串木野郷土史』

『指宿市史』

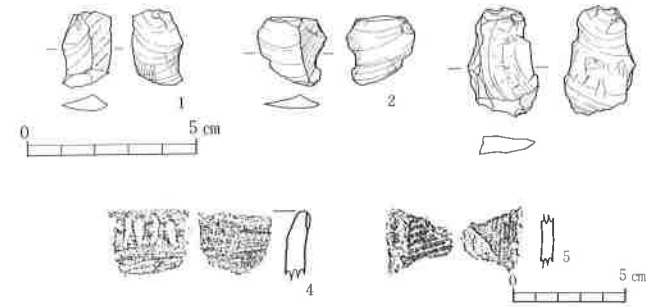
河口貞徳「日本の古代遺跡 鹿児島」1988

表1 串木野市管内の遺跡一覧

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	備考
1	寺堀	上名字寺堀	丘陵	縄文	土器片, 黒曜石片
2	板碑自然石塔 (一石一字)	上名寺堀	平地	文明9年 (1477)	
3	自然石塔 (一石一字)	上名中井原	〃	室町期	
4	坂の下城 (坂下柵)	上名坂下	山陵	中世初期	
5	五輪塔的宝塔	上名福蘭	平地	鎌倉期	
6	五輪塔 (層塔)	上名古子脇	平地	室町期	
7	柵城	上名字門跡	丘陵	鎌倉	帯郭, 空堀, 石墨
8	五輪塔的宝塔	上名豊留	平地	鎌倉期	
9	大中公廟	上名4918の1	平地		
10	串木野市墓	上名4855	〃		
11	並松	上名字並松	大地上		土器, 石器
12	串木野城 (亀ヶ城)	上名麓	山陵	建久年間	
13	西前床	須字西前瀬	山頂	縄文	土器片, 石斧
14	うっがんだん の森	中尾町	平地		
15	供養塔 (庚申供養塔)	下名照島	島内	慶長6年 (1601)	
16	驪竜巖	下名8,050	岩壁		照島の磨崖文字
17	節政	下名字節政	山腹		土器
18	陣ヶ岡	荒川字城ノ本	山頂	中世初～	
19	五輪塔	荒川	山陵	鎌倉期初期	
20	城之園(古城)	荒川	山腹	中世初期	
21	火立ヶ岡 (古城)	上名河内	山陵	〃	
22	板碑的自然石塔	冠岳西岳中腹	山腹	鎌倉前期	



第1図 遺跡の位置及び周辺の遺跡



第2図 寺堀遺跡採集遺物

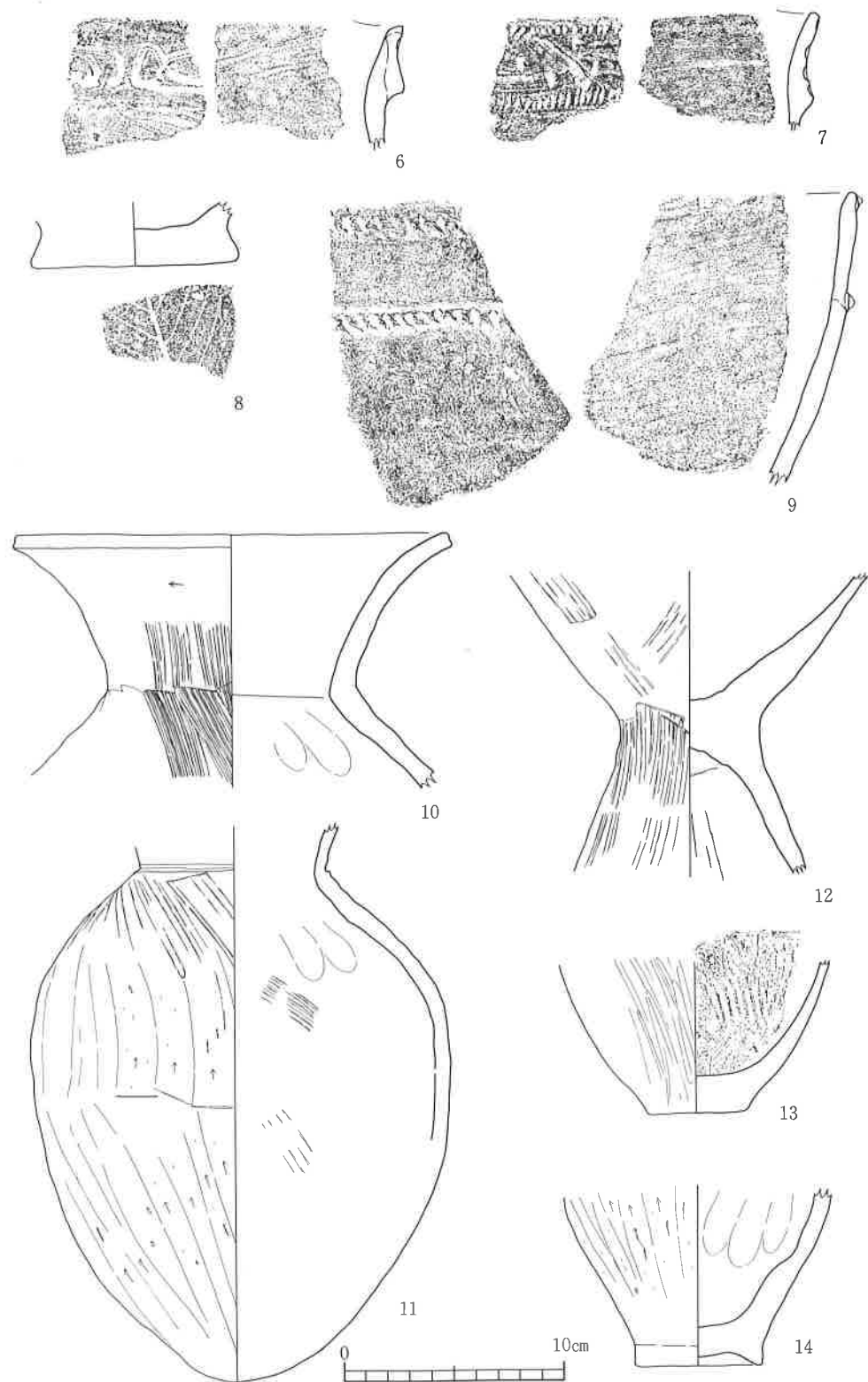
遺物 (第2図)

1～5までは、寺堀遺跡採集の遺物である。1～3は黒曜石の縦長剥片である。黒曜石のチップ・剥片は多く採集されたが、ツールはなかった。4は、円筒形の土器の口縁部でヘラ状工具によって、口縁端部外面に刻目を施している。外面は条痕が微かにうかがわれ、内面はナデられている。5は貝殻文の角筒土器の破片であろう。外面に貝殻条痕を施し、内面は丁寧にナデられている。4, 5はいずれも、縄文時代早期に相当するものと考えられる。こうした土器片が表採されていることは、畑地の造成に伴って、部分的にはかなり下層まで攪乱・削平されていることを示している。周辺には包含層が残っている可能性もある。

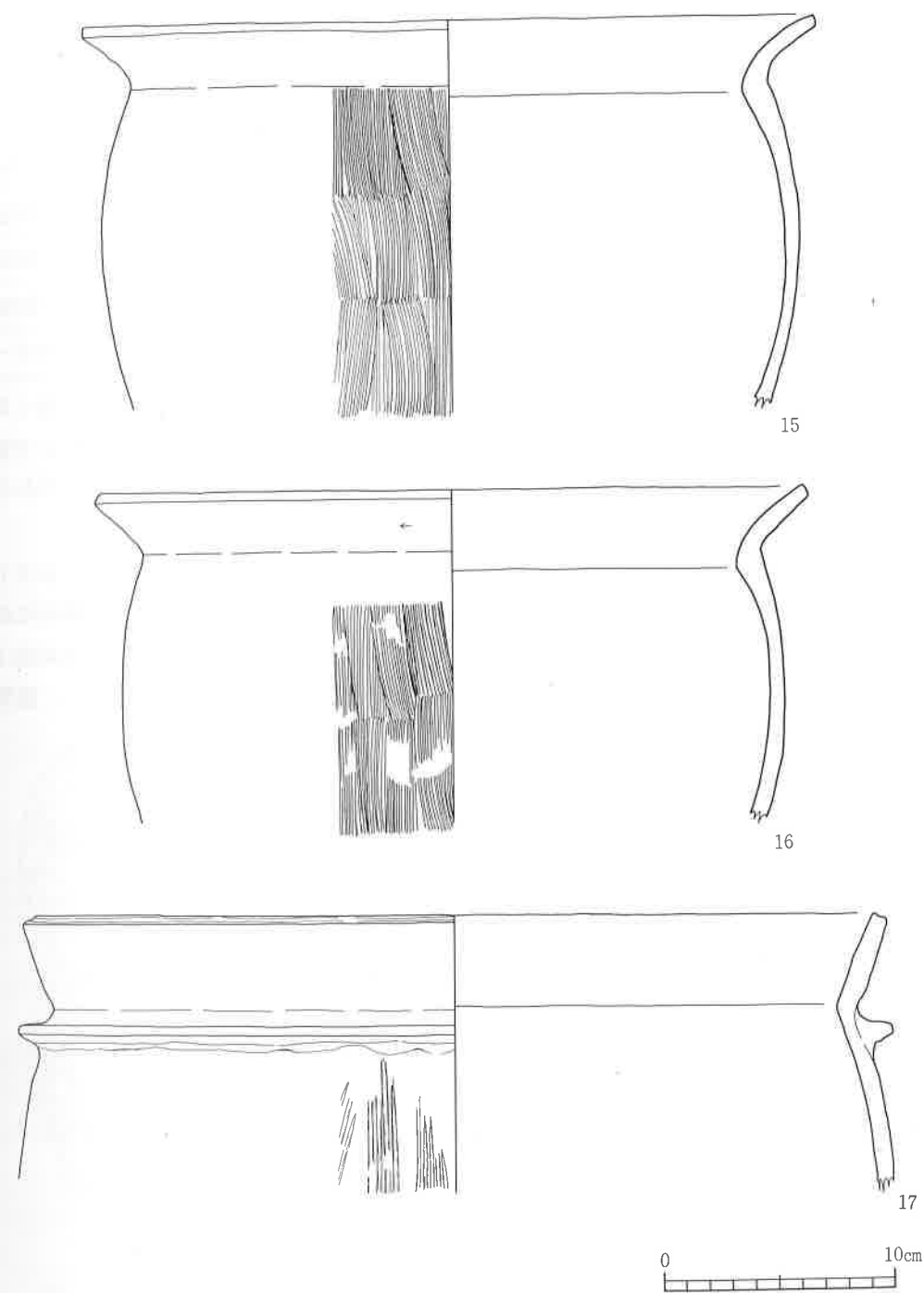
串木野中央公民館収蔵遺物 (第3図～第4図)

番号	出土地	器種	色調	胎土	調整・施文	時代
6	下名平江節政	深鉢	赤褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	貝殻条痕・ナデ・沈線	縄文後期
7	下名平江節政	深鉢	赤褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ナデ・沈線・ヘラ刺突	縄文後期
8	井手下	深鉢	赤褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ナデ・木葉痕	縄文後期
9		深鉢	褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	工具ナデ・刻目突帯	縄文晩期
10		壺	黄白色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ヨコナデ・ハケ目	弥生
11	大原永井坂	壺	淡赤褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ケズリ・ナデ	古墳
12	井手下	高坏	黄白色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ハケ目・ナデ	古墳
13		壺底部	淡赤褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ヘラミガキ・貝殻条痕	弥生
14		甕底部	黄灰色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	工具ナデ・ナデ・指頭圧痕	弥生
15		甕	黄灰色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ハケ目	弥生中期前半
16		甕	淡褐色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ハケ目	弥生中期前半
17		甕	黄白色	石英・長石・角閃石・砂礫を含む	ハケ目・ナデ・貼付け突帯	弥生中期末

調整は外・内の順に記述



第3図 串木野市中央公民館收藏遺物 (1)



第4図 串木野市中央公民館收藏遺物 (2)

第3図、第4図の土器については、一覧表にまとめた。井手下遺跡の出土品は、器面の剥落が激しく、鉄分の付着しているものがある。沓瀬原との報告のとおり、帯水状況にあったことをうかがわせるものである。弥生時代の土器のハケ目の原体は2cm前後である。

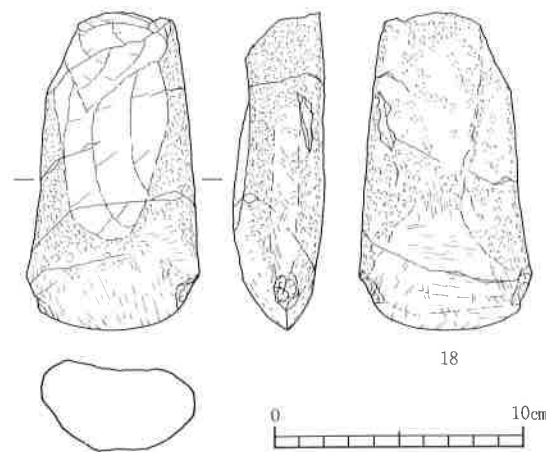
第5図、第6図の石器については一覧表にまとめた。

石器計測表

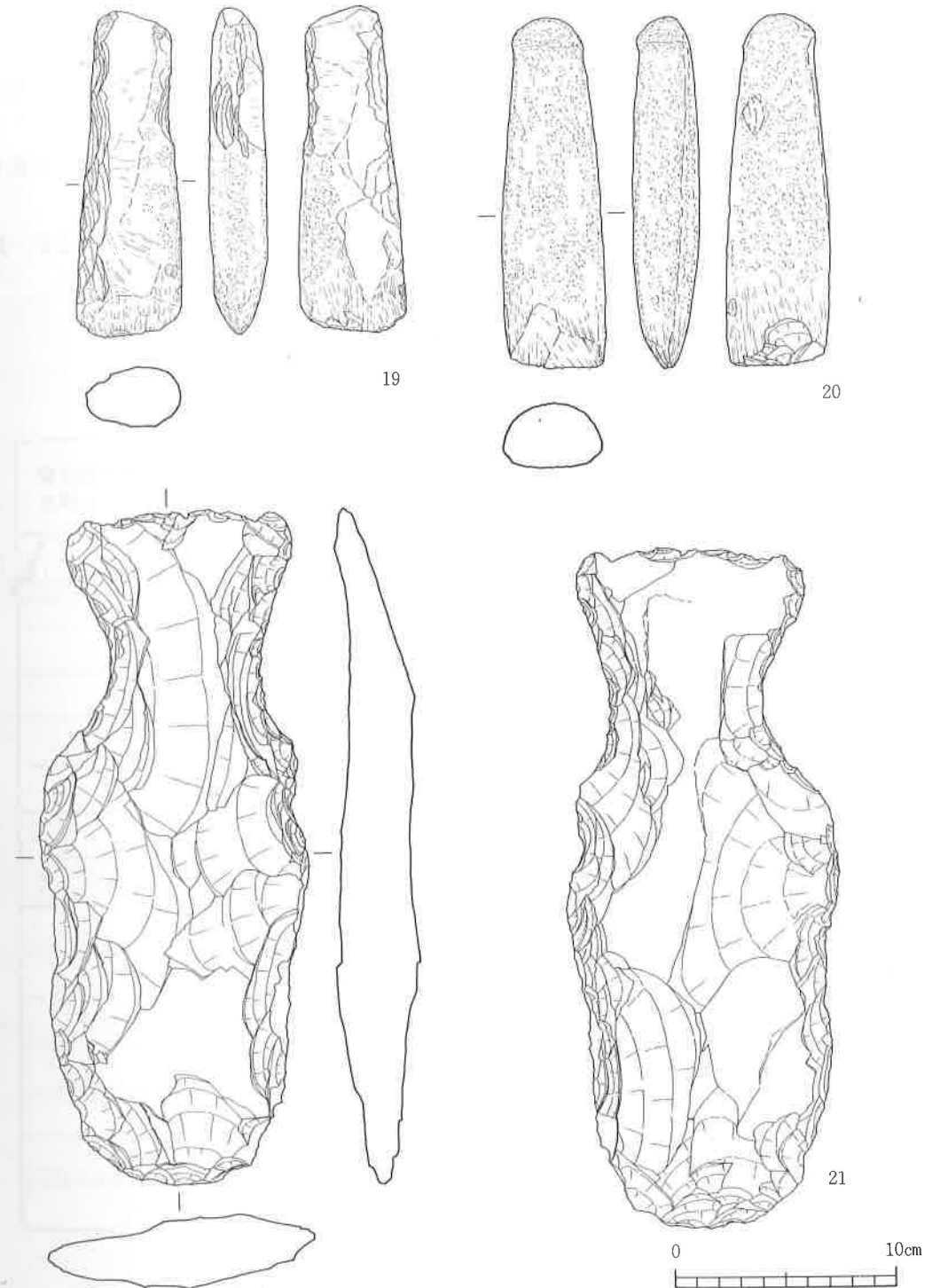
No	出土地	器種	石材	最大長cm	最大幅cm	厚さcm	重量g	時代
18		磨製石斧	変成砂岩	(12.6)	7.0	3.2	450	弥生時代
19	井手下	〃		14.8	4.8	2.7	275	弥生時代
20	井手下	〃		15.8	4.7	3.0	355	弥生時代
21	大原永井坂	打製石斧	頁岩	30.7	12.3	3.8	1,540	弥生～古墳

石器については、石斧のみである。時代の判定は難しい。特に21は、機能的には土掘り具であったとされているが、時期は縄文時代晩期から弥生時代、場合によっては古墳時代まで使用された可能性がある。大型の定型化したものに関しては、弥生時代と判断して間違いなかろうと思われる。

わずかな採集遺物であるが、下名平江節政については縄文時代後期の遺跡であり、井手下遺跡に関しては、土器・石器ともに弥生時代に該当し、大原永井坂遺跡は弥生時代の終わりから古墳時代にかけての遺跡であることが伺われる。埋蔵文化財の保護に関しては、発掘調査ばかりが目されがちであるが、こうした採集品の記録がまずはからなければならない。採集された遺物は図化し資料化されることが望ましい。



第5図 串木野市中央公民館収蔵遺物 (3)



第6図 串木野市中央公民館収蔵遺物 (4)

第3章 調査の概要

遺跡の調査

第1節 調査の概要

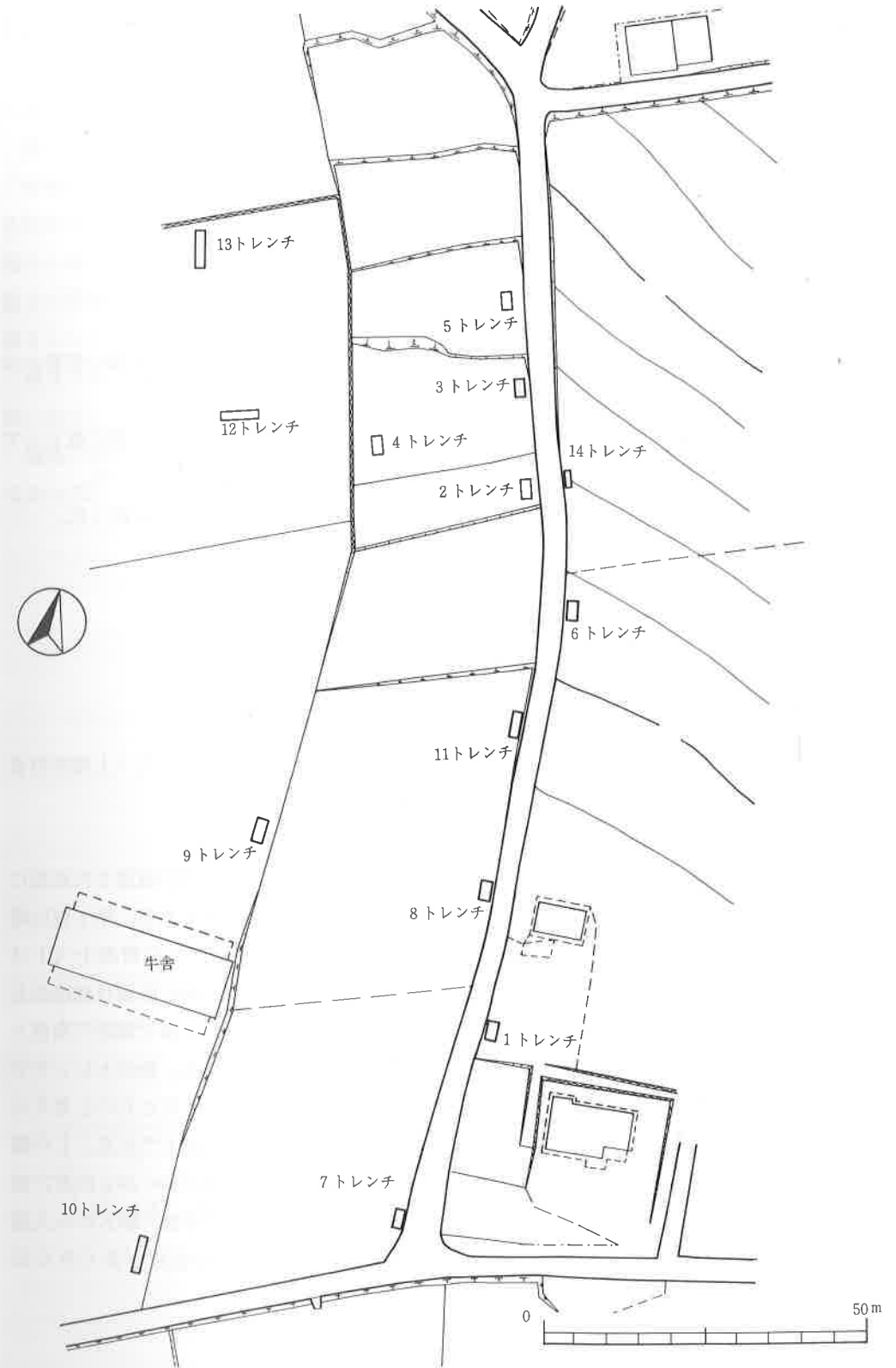
調査対象地区は八房川の北側に川と平行するような形で西側へ延びる標高約105mの台地上にあって、昭和に入って開墾された畑地や樹園地が大半を占めているところである。

確認調査は分布調査の際に確認された遺跡の範囲を中心とし、2m×3mのトレンチを基本として、地形等を考慮に入れながら任意に14カ所設定して実施した。

確認調査の結果、対象地域は現在も土器小片や黒曜石破片等の遺物の散乱がみられるが、遺物包含層と考えられる層は以前の耕作や整地等によって削平されていることが判明した。

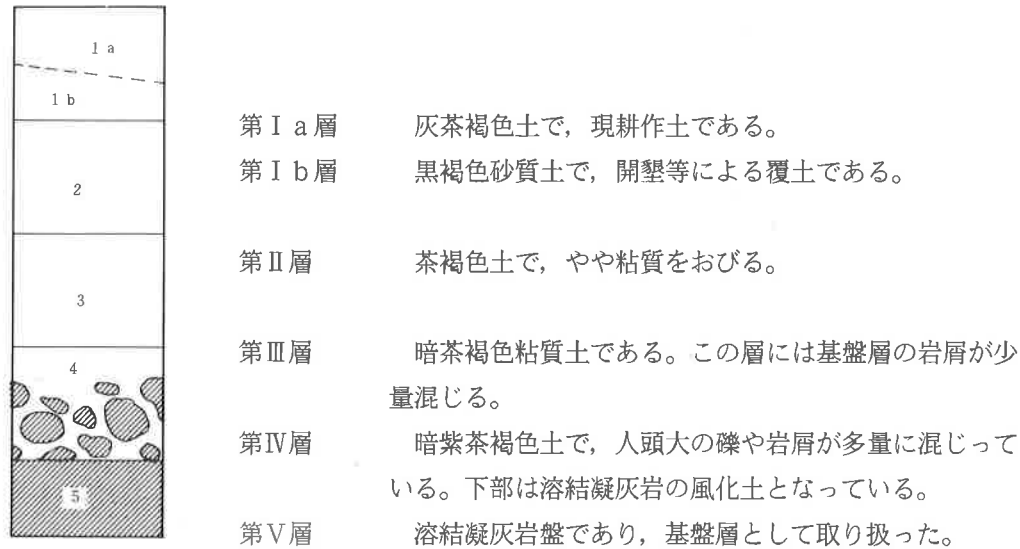
表2 寺堀遺跡トレンチ別一覧

No.	面積 m ²	遺構			出土遺物			遺物包含層 までの深さ
		有無	層	遺構の種類	有無	層	遺物の種類	
1	6	無	—		無	—		
2	6	〃	—		〃	—		
3	6	〃	—		有	I	土器片	
4	6	〃	—		〃	〃	〃	
5	6	〃	—		無	—		
6	6	〃	—		有	I	土器片	
7	6	〃	—		無	—		
8	6	〃	—		〃	—		
9	3	〃	—		〃	—		
10	6	〃	—		〃	—		
11	6	〃	—		〃	—		
12	9	〃	—		有	I	土器片	
13	9	〃	—		無	—		
14	6	〃	—		〃	—		
合計		87 m ²						



第7図 寺堀遺跡地形図及びトレンチ配置図

第2節 土層



第8図 土層模式図

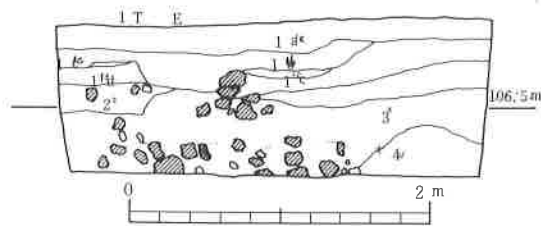
第3節 各トレンチの調査

第1トレンチ

第1トレンチ（2m×3m）は遺跡のほぼ南東部の以前宅地の入り口であった（土地所有者からの教示）部分の標高約107mの荒地に設定して調査を行った。

調査の結果、遺物・遺構等は確認できなかった。

土層は第1層が灰茶褐色土層であり、現耕作土である。この層において溝が確認され底部にレンズ状に砂が堆積しているがこれは旧家屋への出入口に付随する排水溝である。第1層は暗褐色腐植土（1 a層）、暗褐色混土（1 b層）、明灰色砂（1 c層）、灰褐色岩屑混土（1 d層）に細分できる。第1 c層の砂層は通路のものであろう。第2層は褐色土層で遺跡の南側トレンチで確認された層である。他のトレンチでは農地の開墾等により削平されたものと考えられる。第3層は明茶褐色粘質土である。この層には暗灰桃色溶結凝灰岩屑が多くみられる。第4層は暗紫茶褐色粘質土である。拳大から人頭大の暗桃色溶結凝灰岩礫や岩屑が多くみられる。



第9図 第1トレンチ土層図

第2トレンチ

第2トレンチ（2m×3m）は第1トレンチの北側約85mの標高約103.2mの畑地の道路脇に設定して調査を行った。

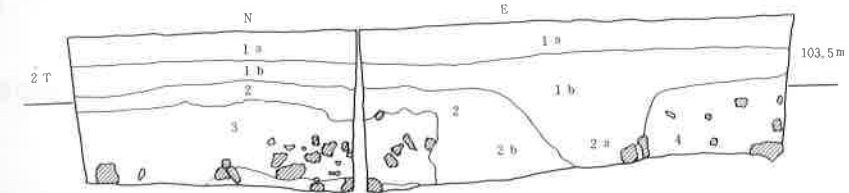
調査の結果、遺物・遺構とも確認されなかった。

土層は第1層が暗褐色土層である。この層は現耕作土である暗褐色腐植土（1 a層）、灰褐色岩屑混土（1 b層）、芋穴の埋土である暗褐色礫混土（1 c層）に細分できる。第2層は暗褐色小礫混土である。第3層は明茶褐色礫（溶結凝灰岩）混土である。第4層は暗紫茶褐色粘質土で溶結凝灰岩礫や岩屑を多く含む。

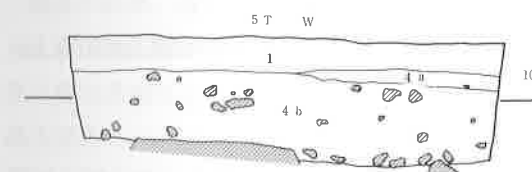
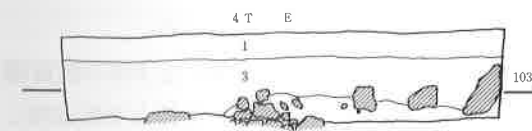
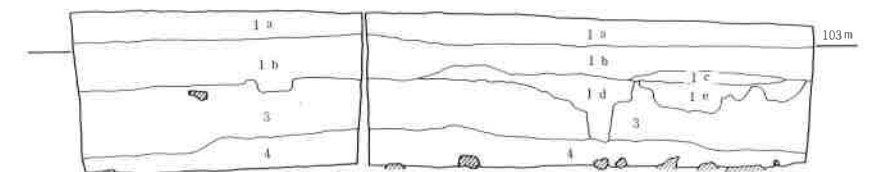
第3トレンチ

第3トレンチ（2m×3m）は第2トレンチの北側に隣接する標高約102.3mの畑地の道路脇に設定して調査を行った。

調査の結果、遺物は表土である第1層から黒曜石の剥片が出土したのみで、遺構は確認されなかった。



第3トレンチ南壁 西壁



第10図 第2～5トレンチ土層図

土層は第1層が茶褐色土である。現耕作土である黒褐色腐植土(1 a層), 硬質黒褐色凝灰岩屑混土(1 b層), 旧表土と考えられる黒褐色腐植土(1 c層), 暗褐色土と茶褐色土との混土(1 d層), 暗茶褐色軟質土(1 e層)とに細分できる。第1 e層中には炭化物が混入しているが, これは肥料として混入されたものであろう。第2層は削平のため欠落している。第3層は茶褐色土である。溶結凝灰岩礫等の混入は少ない。第4層は茶褐色粘質土である。下部ではやや暗紫色が強い。

第4トレンチ

第4トレンチ(2 m×3 m)は第3トレンチと同じ畑地の西側約20mに設定して調査を行った。この部分は畑地の西側表面において最も濃密に遺物が散布している。

調査の結果, 遺物は表土である第1層からと, 第3層から縄文時代に属するものと考えられる土器の小破片と黒曜石の細片が数点出土したのみである。遺構は確認されなかった。

土層は第1層が黒褐色腐植土で現耕作土である。第2層は農地改良のため削平されている。第3層は茶褐色粘質土である。第4層は暗紫茶褐色土である。大形の岩塊がみられる。

第5トレンチ

第5トレンチ(2 m×3 m)は第3トレンチの北側に隣接する標高約101.7mの畑地の道路脇に設定して調査を行った。

調査の結果, 遺物・遺構等は確認されなかった。

土層は第1層が灰茶黒褐色土層で, 現耕作土である。第2層, 第3層は農地改良のため削平されている。第4層は上部で灰褐色暗紫褐色岩屑混土(4 a層)と下部の茶褐色溶結凝灰岩礫混土である。

第6トレンチ

第6トレンチ(2 m×3 m)は第2トレンチと南西約40mの標高約105.0mの道路脇の畑地に設定して調査を行った。

調査の結果, 遺物は表土である第1層から古墳時代に属すると考えられる土器片が1点と黒曜石片が1点出土したのみであるが図化できなかつた。遺構は確認されなかった。

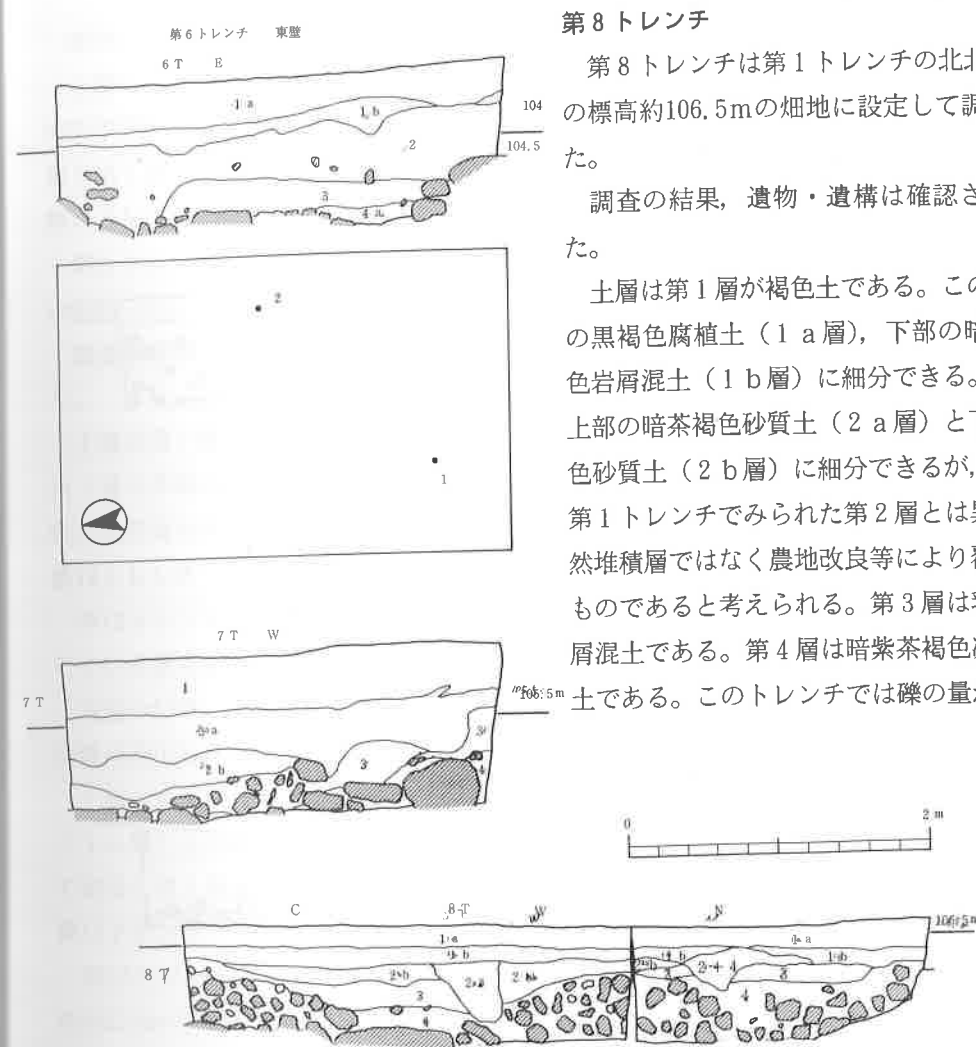
土層は第1層が灰黒褐色土層で, 現耕作土である。上部の腐植土(1 a層)と下部の軟質褐色土(1 b層)とに細分できる。第2層は茶褐色土である。第3層は暗褐色粘質土で部分的に存在する。第4層は暗紫茶褐色岩屑混土である。

第7トレンチ

第7トレンチ(1.5 m×3 m)は遺跡の南端部分で第1トレンチの南約32mの標高約106.3mの畑地に設定して調査を行った。

調査の結果, 遺物・遺構は確認されなかった。

土層は第1層暗褐色土で, 現耕作土である。第2層は上部の暗茶褐色砂質土(2 a層)と下部の茶褐色砂質土(2 b層)に細分できるが, この層は第1トレンチでみられた第2層とは異なり, 自然堆積層ではなく農地改良等により覆土されたものであると考えられる。



第11図 第6～8トレンチ土層図

第8トレンチ

第8トレンチは第1トレンチの北北西約20mの標高約106.5mの畑地に設定して調査を行った。

調査の結果, 遺物・遺構は確認されなかった。

土層は第1層が褐色土である。この層は上部の黒褐色腐植土(1 a層), 下部の暗褐色乳褐色岩屑混土(1 b層)に細分できる。第2層は上部の暗茶褐色砂質土(2 a層)と下部の茶褐色砂質土(2 b層)に細分できるが, この層は第1トレンチでみられた第2層とは異なり, 自然堆積層ではなく農地改良等により覆土されたものであると考えられる。第3層は乳茶褐色岩屑混土である。第4層は暗紫茶褐色凝灰岩礫混土である。このトレンチでは礫の量が多い。

第9トレンチ

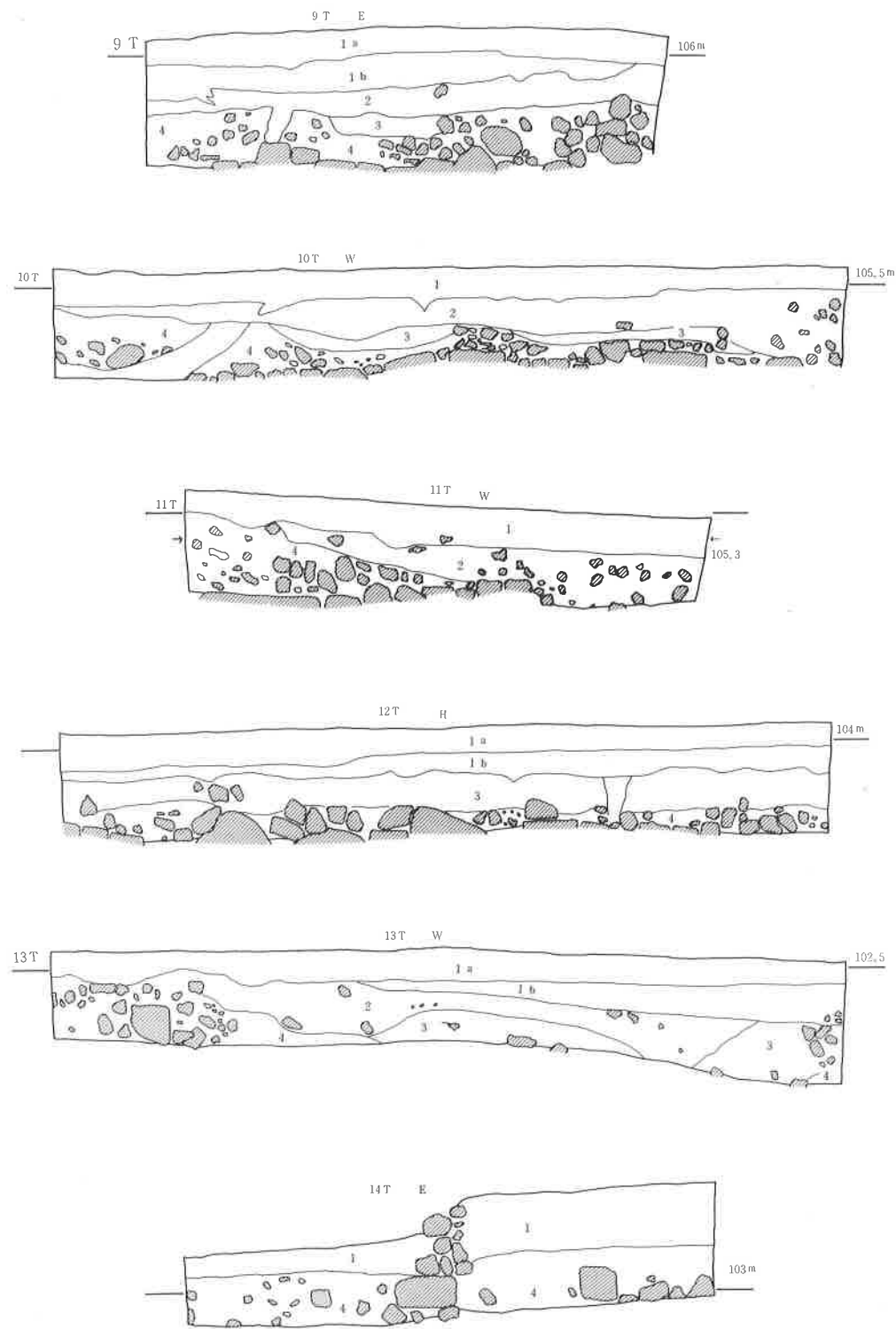
第9トレンチ(2 m×4 m)は遺跡の広がりを確認するため, 牛舎の北側約20mの標高約106.5mの畑地に設定して調査を行った。

調査の結果, 遺物・遺構は確認されなかった。

土層は第1層が上部の暗褐色腐植土(1 a層)と下部の黒褐色岩屑混土(1 b層)である。第2層は茶褐色土である。第3層は暗茶褐色粘質土である。第4層は暗紫乳茶褐色礫及び岩屑混土である。

第10トレンチ

第10トレンチ(1 m×6 m)も遺跡の広がりを確認するため, 牛舎の南側約40mの標高約105.7mの畑地に設定して調査を行った。



第12図 第9～14トレンチ土層図

調査の結果、遺物・遺構は確認されなかった。

土層は第1層が暗褐色腐植土で、現耕作土である。第2層は茶褐色軟質土である。第3層は暗灰茶褐色粘質土である。第4層は暗紫乳茶褐色土で礫及び岩屑が多くみられる。なお、第3層と第4層との境は他のトレンチと比べ明瞭ではなく、やや漸移的である。

第11トレンチ

第11トレンチ（2 m × 3 m）は第8トレンチと同じ畑地の北側約25 mのところを設定して調査を行った。

調査の結果、農地改良のため大きく削平が行われており、遺構・遺物等は確認されなかった。

土層は第1層が暗褐色腐植土で現耕作土である。第2層は農地改良のため削平されている。第3層は茶褐色粘質土である。このトレンチでは第3層中にも礫等が混入している。第4層は暗紫乳茶褐色礫及び岩屑混土である。

第12トレンチ

第12トレンチ（1.5 m × 6 m）も遺跡の広がりを確認するため、表面観察で遺物が多く散布している第4トレンチの西側の標高約105.3 mの畑地に設定して調査を行った。

調査の結果、遺物は第3層から縄文時代に属すると考えられる土器の小破片と黒曜石の細片が数点出土したが図化できるものはなかった。遺構は確認されなかった。

土層は第1層が上部の現耕作土である暗褐色腐植土（1 a層）と覆土である黒褐色岩屑混土（1 b層）とに細分できる。第2層は農地改良のため削平されている。第3層は茶褐色粘質土である。第4層は乳灰茶褐色礫及び岩屑混土である。

第13トレンチ

第13トレンチ（1.5 m × 6 m）も遺跡の広がりを確認するため、第12トレンチの北側の標高約102.6 mの畑地に設定して調査を行った。

調査の結果、農地改良のため大きく削平が行われており、遺構・遺物等は確認されなかった。

土層は第1層が上部の現耕作土である暗褐色腐植土（1 a層）と覆土である黒褐色岩屑混土（1 b層）とに細分できる。第2層は農地改良のため削平されている。第3層は茶褐色粘質土である。このトレンチの第3層中には部分的ではあるものの赤ホヤ火山灰のパミスと考えられるものが点在している。第4層は暗紫乳褐色礫及び岩屑混土である。

第14トレンチ

第14トレンチ（2 m × 3 m）は第2トレンチの道路反対側を設定して調査を行った。

調査の結果、農地改良のため大きく削平が行われており、遺構・遺物等は確認されなかった。

土層は第1層が暗褐色腐植土で現耕作土である。第2・3層は農地改良のため削平されている。第4層は茶褐色礫及び岩屑混土である。

第4章 まとめにかえて

寺堀遺跡は尾根状に細長く延びる台地上にあり、土層は地形に左右されているためか、他地域にみられるものとは異なっており、基盤層は溶結凝灰岩の岩盤となっている。

調査の結果、建設予定地区には包含層が農地改良のため大きく削平されていた。

遺跡の中心部は表面に遺物が散布している第4, 12トレンチ付近であると考えられるものの、調査では図化できるものは出土しなかった。表面採集された土器から第3層に縄文時代早期の前平式土器の遺物が包含されていたことが考えられる。しかし、その範囲は極めて狭い範囲であろう。

縄文時代早期の土器の他に第6トレンチから古墳時代に属するものと考えられる土器の小破片が出土していることから、農地改良時に削平されたと考えられる。しかし、遺跡の範囲は狭いものであったと考えられる。

図 版



寺堀遺跡遠景



寺堀遺跡近景



古石塔群



調査風景



調査風景



1トレンチ



2トレンチ



3トレンチ



4トレンチ



5トレンチ



6トレンチ



7トレンチ



8トレンチ



9トレンチ



10トレンチ



11トレンチ



12トレンチ



13トレンチ



14トレンチ



寺堀遺跡採集剥片 (1~3)



寺堀遺跡採集土器 (4, 5)



寺堀遺跡採集剥片・チップ



串木野市中央公民館収蔵遺物 (6, 7)



串木野市中央公民館収蔵遺物 (11, 12, 8, 9)



串木野市中央公民館収蔵遺物 (10, 13~21)

あ と が き

串木野市における発掘調査は井手下遺跡以来であった。

寺堀遺跡からは串木野の港が見下ろせ、その南側には朝鮮半島から渡来した陶工達の上陸地である照島も望め、往時の様子に思いを馳せたり、目を北に移せば日本有数の金鉱山があり、金に囲まれた自分を夢見たり、さらには不老長寿の薬を求めてはるばる中国からやって来たと思われている霊峰冠岳を望み、はたして不老長寿の薬とは何であったのだろうかなどと考えたり妄想を抱いたりしながらの楽しい発掘であった。

発掘調査結果のほうは以前の農地改良工事等により遺物包含層がすでに削平されており、思ったとおりの成果は得られなかったものの、串木野地区における縄文時代の生活の痕跡があったことを確認できただけでも収穫であったといえよう。

今回の調査に際し、県文化課や伊集院耕地事務所、暑いさなか調査に携わった方々や面倒な整理作業に携わった方々のほか協力いただいた方々に衷心からお礼申し上げます。

発掘調査に携わった方々

山之口 栄, 大六野藤市, 吉留 鉄二, 古川 ノブ, 大六野良子, 田中 ナル,
松元フミ江, 大六野夕子, 大六野ミヤ, 松田ツミ子, 吉留ハルエ, 坂下 睦子

整理作業に携わった方々

浜田 幸江, 竹下マリ子, 春山まり子

串木野市埋蔵文化財発掘調査報告書(1)

寺 堀 遺 跡

1991年3月

発行 串木野市教育委員会

〒896 串木野市昭和通133-1

TeL 0995-32-3111

印刷 (有) 朝 日 印 刷

〒890 鹿児島市上荒田854-1

TeL 0992-51-2191

